



JSTCT Letter No.95

Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy

一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会

July 2024

目次

第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会開催のご挨拶	ii - iii
APBMT 2024のご案内	iv
各種委員会新委員長・新委員および認定医・認定HCTC資格取得者のお知らせ	v
看護部企画「LTFU看護師へのフォローアップ活動」の紹介	vii
私の選んだ重要論文「藤田医科大学造血細胞移植・細胞療法学 森下 喬允 先生、稲本 賢弘 先生」	ix
施設紹介「東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科」	x
会員の声「神戸大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 薬師神 公和 先生」	xi
各種委員会からのお知らせ	xiii

● 2024学会年度分年会費のご納入について

本学会の事業年度は1月～12月となっております。2024学会年度年会費を未だご納入いただいていない方は、お早目にご納入いただきますようお願い致します。[会員マイページ](#)からクレジットカードでのご納入も可能となっておりますので、ご検討いただけましたら幸いに存じます。

[→学会HP「年会費について」](#)

● 本学会会員情報へのご登録内容変更につきまして

ご勤務先の変更等に伴いご住所、メールアドレス等会員登録情報に変更がございましたら、[会員マイページ](#)よりご変更いただくか、Eメール、FAX等にてお早目に事務局までお知らせください。

[→学会HP「登録情報の変更・休会・退会について」](#)

● ご登録いただいているご住所について

本学会では、会員の皆様に対する重要書類、学会総会抄録号などはご登録いただいている住所にお送りしています。宛先不明で返送されてしまった場合、それ以上の対応ができなくなるおそれがありますので、ご自身でのご対応をよろしくお願い申し上げます。

● ご登録いただいているメールアドレスについて

本学会では、皆様に対する各種ご案内の多くをEメールにて配信しておりますが、昨今、アドレス変更の届出漏れが多く、メールが不達となる会員の方も多数みられます。一定期間、事務局からのメールが届いていない方は、一度、事務局 (jstct_office@jstct.or.jp) までお問合せくださいますようお願い申し上げます。

【JSTCT事務局より】

第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会開催のご挨拶

会期：令和7年(2025年)2月27日(木)・28日(金)・3月1日(土)

会場：大阪国際会議場(グランキューブ)

第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会 会長 日野 雅之
(大阪公立大学大学院医学系研究科 血液腫瘍制御学 教授)

第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会を大阪万博の直前、2025年2月27日(木)から3月1日(土)、大阪国際会議場(グランキューブ)で開催させていただきます。本学会のテーマは「みんなが笑顔になりますように～SMILE～」とさせていただきました。

多くの基礎研究により複雑な病態が解明され、ミニ移植やPTCYを用いたハプロ移植、CAR-T治療や二重特異抗体、分子標的薬など新たな治療法の開発、前処置毒性や感染症、GVHD、類洞閉塞症候群などさまざまな合併症に対する支持療法の充実、ドナー負担の軽減、骨髄・臍帯血バンクなどの体制整備などにより、造血細胞移植および免疫細胞療法は急速に進歩し、多くの患者さんが治療を受けられるようになり、成績も向上しています。また、分子標的薬をはじめとした様々な薬剤や治療法の開発によりGVHDなど生命を脅かし、日常生活に支障が出るような合併症に対する治療選択も増え、加えて本学会および造血幹細胞移植推進拠点病院による人材育成、コーディネート支援、地域連携事業により妊孕性温存やLTFU、トランジション、アピアランスケア、就労支援などの体制の充実も図られております。さらに近年、血液疾患の治療成績を向上させるため、ゲノム情報や電子カルテ情報を安全かつ統合的に収集し、人工知能など最新技術を用いて診療を支援するデジタルトランスフォーメーションの試みも始まっています。現時点でも非寛解期の治療や再発など残された課題はありますが、不治の病を治すことを目指す時代から普通の日常生活が送れることを目指す時代になりつつあると思います。造血細胞移植・免疫細胞療法は医師、歯科医師、看護師、HCTC、理学療法士、臨床工学技士、臨床検査技師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの医療チーム、骨髄バンクや臍帯血バンク、日本赤十字社、日本造血細胞移植データセンター、厚生労働省、産業界、その他多くの皆様がお互いの専門性を活かして協働することで進歩してきました。本学会に参加する若い人たちがバトンを繋いでさらに発展させ、患者、ドナー、患者家族に加えて、医療従事者をはじめ、関わる「みんなが笑顔になる」ような学会になりますように、プログラム委員の皆様方のアイデアをいただき、シンポジウムやワークショップ、教育講演などの企画を進めております。学会中は最新の知見に触れ、皆様の研究の成果や貴重な症例を発表していただき、議論を楽しんで頂きたいと願っております。一般演題の募集を7月末から開始予定です(9月上旬まで)ので、ホームページをご確認ください。多くの方々の登録をどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、「笑顔プロジェクト」と題して各施設様から笑顔の写真を送っていただく企画なども検討しておりますのでご協力をお願いします。

そして、学会が終わりましたら、美味しいものをいっぱい食べて、いっぱい遊んで大阪を満喫していただければ幸いです。

大阪でみなさまにお会いする事を心待ちにしております。

 JSTCT

みんなが笑顔に
なりますように

Smile

2025年
会期 2月27日(木)・28日(金)・3月1日(土)

会場 大阪国際会議場

会長 日野 雅之 (大阪公立大学 血液腫瘍制御学 (血液内科・造血細胞移植科)教授)

APBMT 2024のご案内

アジア太平洋造血細胞移植学会 (APBMT) の事務局から、来る10月10日～13日にシンガポールにおいてHybrid形式で開催されます第29回アジア太平洋造血細胞移植学会 (APBMT) 年次総会 (The 29th Annual Congress of APBMT 2024) の参加登録と抄録募集についてご案内いたします。

公式HP：<https://annualmeeting2024.apbmt.org/>

参加費：7月31日までEarly Birdとそれ以降のin-person参加の申し込み金額は以下の通りです。

APBMT会 員 (医師)：80/100 USD

APBMT非会員 (医師)：100/150 USD

医 師 以 外 ：60 USD

Virtual registrationも受け付けております。

APBMT会 員 (医師)：60 USD

APBMT非会員 (医師)：100 USD

医 師 以 外 ：60 USD

参加登録URL：<https://annualmeeting2024.apbmt.org/register>

現在抄録の投稿も受け付けており、7月31日が締め切りです。日本の先生方からのご応募をおまちしております。

抄録投稿URL：<https://annualmeeting2024.apbmt.org/abstract>

主なプログラムはこちらをご参照下さい。

<https://annualmeeting2024.apbmt.org/programme>

本年のAPBMTの会期は日本血液学会総会と完全に重複しており、JSTCT会員の先生方がシンガポールへ渡航されるのが難しくなってしまう大変申し訳ありません。APBMT日本事務局はシンガポールの現地事務局と鋭意準備を進めておりますので、お時間が許せばVirtualでのご参加もご検討下さい。

APBMT日本事務局 飯田 美奈子 (文責)

事務局：愛知医科大学 造血細胞移植振興寄附講座

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

Tel: 0561-62-3311 内線12375

Email: office@apbmt.org

各種委員会 新委員長・新委員および 認定医・認定HCTC資格取得者のお知らせ

1. 各種委員会 新委員長・新委員(敬称略、順不同)

- 1) 在り方委員会：福田隆浩(役職委員)、松本公一
- 2) 広報委員会：木口大輔、西田徹也、神田 舞、深沢聡恵
- 3) 臨床研究委員会：名島悠峰
- 4) 理事評議員選任委員会：谷口修一(新委員長)、日野雅之(新副委員長)、豊嶋崇徳、神田善伸、
諫田淳也、高木伸介
- 5) 倫理審査委員会：内田直之(新委員長)
- 6) ドナー委員会：柳沢 龍、坂口大俊、今田和典、土岐典子
- 7) 看護部会：吉川和代、奥田生久恵、芝 賀奈子、中村美樹子、足利知美
- 8) 社保委員会：緒方正男(新委員長)
- 9) HCTC委員会：神澤雅美、寺林麻子
- 10) 患者手帳作成委員会：諫田淳也(新委員長)
- 11) 賞等選考委員会：熱田由子(新委員長)、福地朋子
- 12) 学術集会企画委員会：日野雅之(役職委員)
- 13) 年次集会プログラム委員会：日野雅之(新委員長)、中前博久(新副委員長)、保仙直毅、
松岡賢市、仲宗根秀樹、東梅友美、中嶋康博、諫田淳也、福島健太郎、小沼貴晶、久野雅智、
村田 誠、薬師神公和、福田隆浩、西本光孝、安斎 紀、足利知美、鶴田理恵、濱田涼太、
藤 重夫、澤田明久、吉原 哲、賀古真一、熱田由子、西川彰則、多田雄真、岡村浩史、
梅本由香里、川口真理子、土井久容、福地朋子

※新委員長(総会会長)および委員長指名の単年のプログラム委員のみ掲載

2. 日本造血・免疫細胞療法学会認定医 新規資格取得者

[2024年5月10日付認定(敬称略、順不同)]

和泉清隆、日野彬央、山本昌代、大城登喜子、森近一穂、小林宏紀、小杉成樹、藤野貴大、
城 友泰、妙中隆大朗、井上恭兵、丹下直幸、景山康生、松川幸弘、林 裕美、南谷泰仁、
徳永良洋、畑野かおる、加登翔太、藤田進也、林 哲哉、鈴木智貴、森 美奈子、後藤洋徳、
細貝亮介、竹林 晃、石田悠志、多林孝之、下村良充、岸本 渉、岡村和美、溝口洋子、
井本直人、松井基浩、辻 紀章、久保政之、大引真理恵、福永景子、横田裕史、鈴木 愛、
小倉愛子、石井 改、白岩佐和子、矢野未央、平手友章、内堀雄介、扇屋大輔、塚田端夫、
高野昂佑、鎌田勇平、梶 大介、唐川修平、濱田高志、皆方大佑、吉原宏樹、藪下知宏、
鈴木琢磨、松川敏大、泉 陽彦、幸地 祐、山入端 敦、三浦翔子、仲地佐和子、高橋康之、
山内拓司、磯田健志、伊藤 巧、中澤英之、野口和寛、浅井 愛、安達弘人、岸田侑也、
北野俊行、二野菜々子

3. 日本造血・免疫細胞療法学会認定HCTC・認定専門HCTC新規資格取得者

[2024年3月21日認定、認定HCTC(敬称略、順不同)]

中田友華里、宮田友紀、三浦由布子、小林千夏、山根香織、岡田菜美、平早水 彩、
岡部奈都美、小山可織、斉藤 愛、向井啓子、牧野桃子、森迫久子、影山優子、林 美香、
打越真理子、田部直子、中嶋 亘、根津 香、西賀祐子、土橋留美子、吉川笑美子、阿部瑠衣、
中村里菜、本多正繁、山崎志津、柴垣美香

[2024年3月21日認定、認定専門HCTC(敬称略)]

山崎奈美恵

看護部会企画**「LTFU看護師へのフォローアップ活動」の紹介****「LTFU看護師へのフォローアップ活動」の紹介**

石川 貴子（岡山大学病院 看護部）

当院は中国ブロックの造血幹細胞移植推進拠点病院であり、拠点事業の一環として様々な職種の育成や地域連携などに取り組んでいます。中国ブロックでは毎年、年に2回看護師間で情報交換の機会を設けており、6月はWebで、12月は対面で開催しています。昨年12月に開催した施設間連携セミナーでは、職位別のグループワークにおいて、LTFU看護師の人員不足や継続的な人材育成等に関する活発な意見交換が行われました。また先月のWeb看護師会では、各施設で取り組んでいるACPの実際や患者対応にジレンマを抱える症例についてのディスカッションを行いました。実際にお互いの顔が見える形での施設間連携セミナーは大変好評で、各施設の抱える課題解決の糸口を見いだせる機会となっています。

また当病棟では移植後長期フォローアップ(以下LTFU)外来を週に1度、7名の看護師が交代で担当しています。そのなかでLTFU看護師としての経験不足や、就労支援・移行期支援に対する困難感を感じている看護師もいますが、互いに相談できる環境があるため、看護師同士の安心感に繋がっています。LTFU看護師同士で相談できる場があることは、LTFU看護師の継続的な人材育成にも繋がると考えています。

そこで、今年度からの新たな事業として「LTFU研修修了者のためのフォローアップセミナー」を企画しました。講師に神戸大学医学部附属病院の土井久容先生をお招きし、LTFU外来の実際についてお話いただく予定です。セミナーでは、各施設の取り組みの実際やLTFU外来の開設・運営に向けた相談、対応に困った症例の共有など、幅広く意見交換を行う予定です。このセミナーを通して施設間でいつでも相談できるよう連携を強化し、LTFU外来の質向上へ向けた示唆が得られる機会となることを期待しています。

開催予定のセミナーについては、岡山大学病院の造血幹細胞移植拠点病院HPをご覧ください。

<https://zouketsu.med.okayama-u.ac.jp>

長期フォローアップ外来(LTFU)看護師の交流を 目的とした研修会の紹介

若松 祥代・足利 知美（大阪公立大学医学部附属病院 看護部）

大阪公立大学医学部附属病院では、造血幹細胞移植推進拠点病院事業として、2018年から年に一回、「長期フォローアップ外来(LTFU)ブラッシュアップ研修会」を開催しています。この研

修会は、近畿圏内の造血幹細胞移植施設でLTFUに携わる看護師やLTFU開設段階の看護師を対象としたグループワーク形式の交流会として実施しています。参加者が他施設との情報交換の場をもつことで、各施設でのLTFU外来の開設や運営における課題や取り組みへの発見、患者指導の充実を図ることを目的としています。

2021年度と2022年度はコロナ禍のためオンラインで開催し、15～20名が参加しました。2023年度は対面で開催し15名の参加がありました。参加者の背景は、LTFU外来立ち上げ準備中の未経験者から6年以上の経験者と、幅広い経験年数の方々が集まりました。研修会の運営は、5～6人程度のグループに1名のファシリテーターを配置し、ファシリテーターは当院と関西の地域移植推進拠点病院でLTFUに携わる看護師が務めました。話し合いのテーマは「就労支援」「リハビリ」「後進育成」などが挙げられ、これらについて情報交換が行われました。近年は成人移行支援(トランジション)にも取り組む施設が増えており、小児科看護師の参加者と成人移行支援についての話し合いも行われました。また、2023年度は看護師からの要望が多かった「移植後ワクチン接種」に関する講演も行い、ブラッシュアップとしてより充実した内容となりました。

研修終了後のアンケートでは、「各施設の取り組みや悩みを共有できた」「意見交換の機会が少ないため、現状やアドバイスが参考になった」「次回も参加したい」といった意見が寄せられました。交流に主軸をおいた内容によって、看護師同士が積極的に意見交換を行い、励まし合う貴重な機会になっていることを実感しました。

今後もブラッシュアップ研修会を通じて、LTFUの取り組みや悩みを共有し、各施設のより良い運用に繋がるよう取り組んで参りたいと思います。



第5回 長期外来フォローアップ ブラッシュアップ研修会

日時: 2024年3月2日(土) 13:00～15:00
場所: 大阪公立大学医学部学舎 18階 会議室
 大阪府大阪市阿倍野区旭町1-4-3

プログラム

- 13:00-13:40 **移植後ワクチン接種**
LIGARE 血液内科太田クリニック ワクチン外来
大阪府済生会中津病院 感染管理室長 安井 良則先生
- 13:45-15:00 **交流会 グループでのディスカッション**

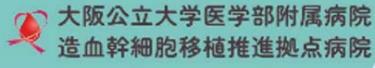
ワクチンのことはどう案内してる?

他の施設ではどうしてるんだろう。LTFU外来の疑問や悩みをみんなで話し合いませんか

小児で私の同僚いつまでしてる?

対象 フォローアップ外来研修を受講し、実際に外来で患者の指導・面談を実施している看護師
*成人だけでなく、小児のグループも作成予定

定員 20名



事務担当: 岩藤 ☎ 06-6645-3881
✉ gr-med-isyokukyoten@omu.ac.jp

お申し込みは下記QRコードよりお願いします

申込み期限 2月25日



私の選んだ重要論文

Yongxian Hu, Mingming Zhang, Tingting Yang et al.

Sequential CD7 CAR T-Cell Therapy and Allogeneic HSCT without GVHD Prophylaxis.

The New England Journal of Medicine vol. 390, 16 (2024) : 1467-1480. doi:10.1056/NEJMoa2313812

再発難治性のT細胞型造血器悪性腫瘍は予後不良である。近年、キメラ抗原受容体導入T細胞(chimeric antigen receptor-T cell, CAR-T)療法を同種造血幹細胞移植(HSCT)までの橋渡しとして用いる戦略の有効性が報告されている。しかし、移植前処置は関連した毒性があるばかりでなく、CAR-T細胞の根絶も起こしてしまうため、抗腫瘍効果が減弱する可能性がある。中国で行われたこの研究は非常に新しい発想に基づいており、再発難治性CD7陽性造血器悪性腫瘍を対象にCD7 CAR-T細胞療法に引き続くハプロHSCTを移植前処置もGVHD予防も行わずに連続的(オールインワン)に実施する方法が試みられた。有望な結果が報告されているため、今後の新規移植治療戦略のプラットフォームになる可能性があると考え紹介する。

本試験の対象は中国で行われた2つの前向き試験に登録され、適格基準を満たした再発難治性CD7陽性造血器悪性腫瘍患者10例であった。適格基準はCD7 CAR-T細胞療法後に血液学的回復が不完全で、高度骨髄抑制を伴う完全寛解(CRi)が得られていること、CD7 CAR-T治療後にCAR-T細胞が検出できること、同種造血幹細胞移植の既往がないことが条件であった。CAR-T細胞療法前のリンパ球除去療法として、フルダラビン(30 mg/m²)、シクロホスファミド(300 mg/m²)、エトポシド(100 mg/body)が5日間投与された。HSCTは前処置ならびにGVHD予防を行わずにHLAハプロ合致ドナーより施行された。CAR-T細胞の作製は9例はHSCTと同じHLAハプロ合致ドナーから、1例はユニバーサルCAR-T細胞が用いられた。ハプロHSCT後、1例は13日目に敗血症性ショックと脳炎で死亡し、8例は完全なドナーキメラを獲得し、1例は自家造血が回復した。3例がGrade IIの急性GVHDを合併した。CAR-T細胞療法後の追跡期間中央値15.1か月(範囲、3.1~24か月)において、6例は分子学的完全寛解を維持し、2例はCD7陰性白血病が再発し、1例は3.7か月目に敗血症性ショックで死亡した。1年全生存割合は68%(95% CI 43~100%)、1年無病生存割合は54%(95% CI 29~100%)であった。

本研究の重要な発想は、CD7 CAR-T細胞が患者腫瘍だけでなく、ドナーT細胞を抑制する可能性があることに着目し、移植前処置およびGVHD予防薬の両者の投与を回避したことである。この方法により、移植前処置のもつ毒性が回避されたばかりでなく、HSCT後もCAR-T細胞が長期的に維持されることが確認された。CAR-T療法によりCD7陽性腫瘍細胞が消失した症例のみを対象としているものの、全例でHSCT後もCAR-T細胞は持続的に残存し、評価可能な9例のうち8例で完全型ドナーキメリズムが得られていた。これはドナー由来T細胞と、持続するCAR-T細胞とが、相乗的に強力な抗腫瘍効果を発揮した可能性を示唆する。

この研究は有効な治療法に限られるT細胞性腫瘍への有望な治療法となるばかりでなく、CD7 CAR-T細胞をGVHD抑制目的で使用する戦略の基礎となりうる。CD7に加えて別の標的抗原を合わせたdual CAR-T細胞やCAR-T細胞カクテル療法を開発すれば、他の腫瘍にも応用できる可能性があり、全く新しい未来の同種移植治療が誕生するのではないかと心が躍ってしまう。

藤田医科大学 造血細胞移植・細胞療法学 森下 喬允、稲本 賢弘

施設紹介

東京慈恵会医科大学附属病院 腫瘍・血液内科

横山 洋紀

当院は、1882年(明治15年)に学祖である高木兼寛先生が「病気を診ずして病人を診よ」の建学の精神のもと前身である成医会講習所を設立し、その後1922年に本学の附属病院として創立されました。現在1,075床の病床数を有し140年以上の歴史がある東京都港区の特定機能病院です。

当科は2006年に血液・腫瘍内科と臨床腫瘍部が統合され、腫瘍・血液内科として新たな講座として設置されました。2020年には緩和ケア診療部が腫瘍・血液内科に加わり、良性・悪性の血液疾患、固形がん、および緩和ケアによる全人的医療を包括的に提供できる体制となり、附属病院の他、柏病院(千葉県柏市)と第三病院(東京都狛江市)の3病院で合わせて43名の医局員で診療・研究・教育を行っています。

細胞療法の歴史は、1989年に同種骨髄移植を始め、1994年に骨髄バンクドナーの骨髄採取および非血縁者間骨髄移植、そして1997年には同種末梢血幹細胞採取および非血縁者間末梢血幹細胞移植、2003年に臍帯血移植を開始し、その時における最新の造血幹細胞移植療法を患者さんに提供できるように体制を整えてきました。HLA半合致移植を導入するために、2013年に兵庫医科大学病院へ見学に行き、少量ATGとステロイドを用いたHLA半合致移植を学ばせていただきました。小川啓恭先生と池亀和博先生にはお忙しい中、病棟での診療の様子を詳細に教えて下さり、大変有意義に学ばせていただきました。当院の半合致移植が提供できるようになったのは先生方のおかげであり、心より感謝しています。2021年にはキムリア提供可能施設として承認を受け、2024年にはイエスカルタも施設承認されました。柏病院、第三病院や他施設の病院からも積極的に紹介患者さんを受け入れ、造血幹細胞移植数は年間約40件、CAR-T療法は年間約10件施行しています。



病棟体制は、常時50～65名の入院患者さんを5～6チーム体制で診療しています。防護環境病棟は2000年と比較的早期から稼働しており、クラス100を9床、クラス10,000を19床の計26床を有しています。白血病の寛解導入療法や自家・同種造血幹細胞移植だけでなく、白血病の地固め療法、高度の血球減少が予想される救急がん薬物療法などでも患者さんがより安全に治療を受けられるように、防護環境病棟を使用しています。当科のカンファレンスは週2回行い、多職種カンファレンスは週1回行っています。病棟看護師、LTFU資格を有した外来看護師、HCTC、薬剤師、リハビリ科医師および理学療法士、栄養士、歯科衛生士、心理士が参加し、全ての患者さんの情報を共有してチーム治療を行っています。

細胞療法が多様化していく中で、建学の精神「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践するためにはチーム医療が不可欠であり、患者さんや家族から信頼される医療人を育成できるようにこれからも精進していきたいと考えています。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

会員の声

移植の現場から SOS ～貴重な出会いに感謝

神戸大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 薬師神 公和

大分大学の高野久仁子先生からバトンを受け取りました神戸大学の薬師神です。軽い気持ちでお引き受けしたのですが、移植の現場に立つ医師として、これまでの経験を振り返りながら、改めて考えをまとめる良い機会になりました。

私が同種移植を学び始めたのは2000年、移植前に消毒液の入った浴槽に入るという儀式(いわゆる薬浴)がまだあった頃でした。私は最強の治療である移植に魅力を感じつつも、複雑な思いを抱えておりました。元気な移植患者さんも多くいましたが、重症の慢性GVHDに悩む患者さんや肺合併症に苦しむ患者さんを見て、移植という治療法は命を救う一方で、恐ろしい一面もあることを痛感しました。当時、私自身が辛くなって”SOS”を発した際、一人で明石海峡大橋の見える洒落たバーに行き、下戸の私はコーヒーとケーキで気分転換を図ったりしていましたが、日々の悩みを聞いてくださる先輩との食事の時間は私にとってかけがえのないものでした。今の私が元気に移植医療を続けられるのはその先輩のおかげと感謝しています。

その後、東京での短期研修の後に神戸に戻って病棟で勤務した後、研究生生活に入りました。学位論文として類洞閉塞症候群(SOS)の治療薬である defibrotide に関する論文を執筆する機会をいただき、これが私のSOSのデビュー作となりました。この貴重な機会をくださった指導教員の先生に本当に感謝しております。

大学院生活を終え、再び臨床の現場にもどり、さまざまな経験を積む中で、うれしいことも辛いこともありました。特に幼い子がいる若い母親が、SOSのために命を落とした経験からSOSをなんとかしたいという思いが一層強くなり、私は再び東京で2年間、移植を勉強しようと決意しました。

2回目の東京生活は家族と共に過ごしたこともあり、公私とも充実していました。私の自由を尊重してくれた妻に感謝しています。研修先ではCHOP療法のように移植が行われており、非常に刺激的な毎日でした。移植のスペシャリストである指導医の先生方、エース級のレジデント、チーフレジデントの先生方、患者さんに寄りそう看護師の皆様をはじめとする多職種による移植チームの一員として勤務できたことは貴重な経験でした。

2010年に再び神戸に戻ってきました。チーム医療の実践において、職種を超えて喜びや辛さなどを共有できる仲間はかけがえのない存在であり、その出会いを大切にしたいと思っています。振り返ってみると、今まで多くの素晴らしい出会いがあり、その一人一人に感謝しております。より良いチーム医療の実践には「一枚岩」であることが重要であり、その一枚岩のチームで一人でも多くの患者さんを救いたいと願っております。

今回は敬愛する福田隆浩先生のもと、国がんで一緒に研鑽を積み、今、神戸市立医療センター中央市民病院で大活躍されている平本展大先生にお願いしたいと思います。

次号予告

今回は、神戸市立医療センター中央市民病院 平本 展大 先生です！

各種委員会からのお知らせ

【国際委員会】

9th WBMT Workshop/Symposiumが来る2024.9.26~28にMongolia、Ulaanbaatarで、Hybridで開催されます。詳細は [WBMT HP](#) をご覧ください。

ICBMT (韓国造血細胞移植学会の年次総会) が9/26-9/28まで韓国釜山で、APBMT年次総会が10/11-10/13までSingaporeで開催されます。それぞれ詳細は [ICBMT 2024](#)、[APBMT 2024](#) のHPでご確認ください。

委員長 高橋 聡

一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 事務局

名古屋市西区那古野二丁目23-21-7d号 (〒451-0042)

Tel: 052-766-7127 Fax: 052-766-7137 E-mail: jstct_office@jstct.or.jp <https://www.jstct.or.jp/>